

丹後国営開発農地におけるナシ「ゴールド二十世紀」の果実糖度向上技術

農林センター 丹後特産部

要旨

ナシ「ゴールド二十世紀」において、「ナギナタガヤ草生栽培」、「葉数を確保するせん定方法」、「収穫前の白色マルチ被覆」を組み合わせることで、毎年安定して平均 0.9 度の果実糖度向上が可能になる。

成果の概要

「ナギナタガヤ草生栽培」は夏季に倒伏するイネ科植物ナギナタガヤを果樹園で栽培するもので、糖度向上以外にも、土作りの効果や抑草効果も期待できる(図1)。

「葉数を確保するせん定方法」は、せん定時の花芽整理の際、慣行の1.5倍多く花芽(結果枝 1 m 当たり 18 花芽)を確保することで、展開葉数を増加させるものである(図2)。

「収穫前の白色マルチ被覆」は 8 月中旬から収穫終わりまで透湿性の白色マルチで地面を全面被覆することで、降雨による糖度低下の影響を軽減できる(図3)。

3 つすべての技術を組み合わせることで、平均 0.9 度糖度が向上する。ただし、組み合わせる技術が増えるほど果実重が低下するが、平均 370 g (3 L 相当)の果実重は確保できる(表)。ただし、小玉傾向のある園では、摘果や適正な着果数等、果実肥大を促進する管理をこれまで以上にしっかりとする必要がある。



図1 ナギナタガヤ草生栽培



図2 葉数を確保するせん定方法



図3 収穫前の白色マルチ

表 技術の組み合わせと果実糖度、果実重

試験区	果実糖度(度)	果実重(g)
ナギナタ+葉数多 +マルチ	11.7	374.3
ナギナタ+葉数多	11.6	385.4
ナギナタ草生	11.3	402.9
清耕栽培(対照)	10.8	436.4

(問合せ先 : 0772-65-2401)